



週報

Weekly Report

RI テーマ
奉仕を通じて平和を

2012-2013 年度
国際ロータリー会長 田中作次

国際ロータリー第 2720 地区 **熊本南ロータリークラブ**
Rotary International District 2720 Kumamoto South Rotary Club

例会日 / 毎週月曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場 / 〒860-8536 熊本市中央区上通町 2-1 ホテル日航熊本内
 創立日 / 昭和 33 年 9 月 1 日 (承認 昭和 33 年 11 月 24 日)
 会長 / 浅山弘康 幹事 / 漆島典和 クラブ広報委員長 / 吉原コウイチ
www.kumamoto-southrc.org

第26回例会記録(通算第 2554 回)

平成 25 (2013) 年 2 月 18 日

斉唱 国歌 君が代

ロータリーソング「我等の生業」

来訪者紹介

吉村郁也様 (株式会社グローカル・ビジョン代表取締役)
 熊本東南 RC 吉田嘉昭様

会長報告 (浅山弘康君)

昨日の第 2 回熊本城マラソンでのボランティア活動、大変お疲れ様でした。赤澤委員長を始め、50 名近く参加頂きましたことに対し、感謝申し上げます。

我社の場合、午前 8 時から 11 時 30 分まで、3 時間半に渡り、テレビ生中継を実施しました。フルマラソン、熊日 30K ロードレース、4K が同時生ということ、九州、沖縄各局、大阪 MBS 毎日放送協力の基、約 150 名の制作スタッフによる生中継でした。今回は 30K ロードレースの川内選手の頑張りにより、番組としては盛り上がりがあり、すばらしい展開となりました。

その番組視聴率は 27.5%、瞬間最高視聴率は 37.5% というすばらしい視聴率を取ることが出来ました。本当にありがとうございました。

以上、会長報告に変えさせていただきます。

幹事報告 (漆島典和君)

1. ロータリー手帳購入のご案内
2. 熊本グリーン RC より第三回熊本市域 RC 会長幹事会議議事録の送付
3. 佐伯 RC より将棋愛好家名簿作成の案内
4. 玉名中央 RC 創立 30 周年記念式典の案内



2月17日 第2回熊本城マラソン ボランティア参加の皆さん、大変お疲れ様でした！

今日の例会

1. 今日の歌
2. 来訪者紹介
3. 会長・幹事・各委員会報告
4. 外部卓話 薄井良文様 (阿蘇広域消防本部)

今月・来月の行事

- 3/8・9 国際ロータリー第 2720 地区 地区大会 @ 大分市
- 3/16・17 会長エレクト研修セミナー @ 人吉

出席報告 (永井富士雄君)

会員数	出席数	出席率	前々回 修正出席率
62名	40名	68.97%	100.00% (理事会で決定)
出席規定適用免除者 8名		欠席記録免除者 0名	
名誉会員 0名 (会員数には含まれません)			

例会変更のお知らせ

- 東南 RC ~ 定款に基づき休会
[変更前] 3月6日(水) 12:30 ~
- 熊本北 RC ~ 台北羅馬 RC との姉妹クラブ締結記念例会の為日時変更
[変更前] 3月7日(木) 12:30 ~
[変更後] 3月8日(金) 15:00 ~
[場 所] 杉乃井ホテル

○中央 RC～定款に基づき休会
[変更前] 3月8日(金)18:30～
[場 所] ニュースカイホテル

○05福祉 RC～運動公園清掃の為時間変更
[変更前] 3月12日(火)12:30～
[変更後] 3月12日(火) 6:30～
[場 所] 県民総合運動公園

○05福祉 RC～親睦会の為日時変更
[変更前] 3月26日(火)12:30～
[変更後] 3月30日(土)12:00～
[場 所] 寺田邸

委員会報告

●社会奉仕委員会(赤澤 剛君) 熊本城マラソンボランティアの報告



3/24オハイエクまもと:とっておきの音楽祭 支援の件

●雑誌委員会(瀬尾広夫君)

「ロータリーの友」2月号のご紹介をさせていただきます。
まず、横書きのページをお開き下さい。

1ページは、田中 RI 会長メッセージです。「超我の奉仕」が生み出す希望と平和と題して、「超我の奉仕」には国境はないということ、そして「超我の奉仕」というのは、自分の欲を満たすより他者のニーズを優先する道を選ぶ、ということを端的に述べられています。

5ページからは「世界に目を向ける」と題して、世界理解月間特集記事です。6ページから12ページまで、全国のロータリークラブにおける国際交流報告です。アメリカのホットスプリング市のロータリアンを温泉で歓迎した模様などが報告

されています。13ページから18ページには、第一次世界大戦、第二次世界大戦そして戦後と、ロータリアンが国際平和に貢献した内容がまとめられています。例えば、国際連合の設立に重要な役割を果たしたこと、教育・科学・文化のためのビジョンを練り上げるフォーラムがその後「UNESCO」の名で知られる国際連合教育科学文化機関に発展したことなどがあげられています。戦争と平和の視点から見たロータリーの平和推進運動の流れを知ることが出来ます。是非ご一読願います。

19ページから21ページは、国内のロータリアンが考える「平和」についての投稿記事です。いくつかご紹介いたします。平和とは、「争いのない世界」、「真の平和は心の平和」、「笑顔で話しあうことが一番」、「他者・他国との関係性の中にある状態」、「平凡な日常を送れること」など、一人ひとりの平和観が語られています。

22ページから23ページは、心に残るロータリーの体験談です。入会されて1年数か月のロータリアンが「クラブに選ばれた私になるために」と題して投稿されています。バンコクでの国際大会に参加された際のご自身の色々な気づきはとても印象に残りました。現地や現場を体験することの重要性を再認識させてくれます。

36ページには、ポール・ハリスがロータリーの会合を初めて開いた1905年(明治38年)2月23日の模様が描かれています。今度の土曜日(2月23日)に108年を迎えます。

41ページから48ページまでは、「ロータリアンのためのポリオ撲滅アドボカシー入門」です。アドボカシーは、ここでは、政府などへの働きかけという意味で使われています。

次に、縦書きのページです。2ページから6ページは、講演要旨記事です。ここは、いつも興味深い内容ですので、毎回ご紹介しています。今回は、「チェルノブイリ原発事故のその後と福島」と題しての松本市市長で医師でも在られる菅谷昭(すがのや あきら)さんのお話です。原発事故から26年経った現在、チェルノブイリで起こっている事実がリアルに語られています。チェルノブイリの事故の影響は、現在も進行形で、今後の見通しすら立っていないのだそうです。26年たってもです。福島はまだ事故後1年半です。チェルノブイリのように、これから長期に続くということだそうです。かなりインパクトのある内容になっています。この記事は、是非皆さん読んでいただきたいと思います。

16ページからは、友愛の広場です。19ページに「美談の裏側」と題した記事があります。1932年のロサンゼルス五輪で、陸上長距離の日本代表選手が周回遅れになりました。背後に先頭集団が迫りこの日本選手が外側に出て自分のコースを開けて譲ったことが、美談として翌日の地元新聞で記事になり、ロス五輪のヒーローに祭り上げられた話の真相です。これは、日本の小学校の教材にもなったそうです。その真相や如何に。真実は、是非皆様ご自身でお確かめ下さい。以上、雑誌委員会からのご報告です。

●スマイルボックス(現王園敏伸君)

○浅山弘康君・漆島典和君・古財良一君

当クラブへの来訪者吉田嘉昭様を歓迎いたします。また、本日卓話の吉村郁也様に心から感謝致します。昨日の熊本城マラソンには赤澤委員長はじめ会員の皆様、特に現王園会員には多数の美しい社員の方々を動員いただき心より感謝いたします。

○淵田俊郎君・久峨章義君

吉村郁也様の卓話ありがとうございます。お忙しい中ご無理申し上げます。お話楽しみにしています。

○田川憲生君

吉村さんの卓話楽しみにしています。危機管理の第一人者としてご活躍を期待しています。今週末は御嬢さんの結婚式。おめでとうございます。駆けつけます。

○井上雄一朗君・堀川貴史君

吉住塗装の吉田さんの来訪を歓迎いたします。いつもお世話になっております。また、申し訳ございません。本日所用のため早退させていただきます。近日中には皆様に良い報告が出来るよう、現在努めておりますので衝撃発表をもう少しお待ちください。

○赤澤 剛君

昨日のボランティア参加の皆様ありがとうございます。レースに出られた2名はみごと完走されました。おめでとうございます。また、本日来会の吉田様を歓迎いたします。

○元田亮一君

昨日は第二回熊本城マラソンに参加し、無事完走することができました。ボランティアの皆さんと沿道で応援くれた皆さんに感謝のスマイルいたします。(記録:3時間47分)

○工藤青史君

昨日の熊本城マラソンボランティアお疲れ様でした。皆さん方のおかげで楽しく4キロ走ることができました。ありがとうございました。

○堀川貴史君

熊本城マラソンボランティアお疲れ様でした。参加できずすみませんでした。また、先週の全国ローターアクト研修会参加いただきました皆様ありがとうございます。

○渡邊秀章君

熊本県と市と共同で実施している「スマートひかりタウンくまもと」プロジェクトが先週で1周年を迎えました。本日は取組のチラシを配らせていただきました。2月28日まで上通り・下通り・新市街の商店街様にも協力いただき「スマートフォンでキャラクターを探せ！」のイベントを実施中です。くまもんグッズや商店街の商品券が当たりますのでご家族や会社の皆さんにもお伝え下さい。

○渡邊秀章君

久しぶりの親バカスマイルです。先週誕生日を迎え、今年も息子の彼女から花束が熊本の寮に届きました！殺風景な部屋が一気に春めきました。その一方で末の娘が一人

暮らしを始めました。大きなくまモンのぬいぐるみを見張り役にプレゼントしたところ、部屋のソファーにどんと座らせてくれています。嬉しさとちょっぴり寂しい先週の出来事でした。

○塚本 侃君

本日は所用のため早退します。お詫びのスマイルです。

○現王園敏伸君

今日は所用のため早退します。お詫びのスマイルです。

会員卓話(玉田光識君)

「緊張化する国際情勢・どうする日本」

株式会社グローバル・ビジョン代表取締役 吉村郁也様



今、日本を取り巻く世界で何が起きているのか、東日本大震災・福島原発事故の傷も癒えないままに、尖閣問題を口実とした中国の挑発、竹島問題に絡んだ急激な日韓関係の悪化、北朝鮮による長距離ミサイル・核実験の実施等、周辺国との間でこれまでにな

い緊張関係が生じ、中東・北アフリカ等のその他の地域でも国際情勢は激しく揺れ動いている。この戦後、最悪とも言える危機的状況下で安倍日本丸は、この激流を乗り越えることができるのか。

今日もナイジェリアのアブジャで外国人を対象とした拉致事件が、発生しているが、身代金目的の犯行の可能性も高い。また、パキスタンでもスンニハ派過激派によると思われる爆弾テロが発生し、約80人が死亡したと伝えられている。

今、世界で起きている様々なリスクの中で、今日、日本にとって最も深刻かつ厄介な、「チャイナ・リスク」の問題と、資源確保のため「海外のプラント建設現場等で働く日本人の安全対策」等の日本が直面している課題について話してみたい。

まず、最初は「チャイナ・リスク」についてであるが、この問題は、専門家の間では相当前から指摘されてきた。中国による尖閣諸島の領有権主張を巡り、中国国内における露骨な反日キャンペーンや中国軍等による挑発行為が繰り返され、多くの国民が危機感を感じるようになってきた。中国は、熾烈化する資源争奪戦の中で、絶対に譲ることのできない核心的利益として、ごり押し的な形で尖閣・南沙諸島の領有権を主張し、日中・中越・中比関係を緊張させている。中国の右肩上がりの軍事力拡大、中でも目覚ましい空海軍力の強化(空母の配備)の目的は、資源確保とシーレーンの確保にあると見られるが、一方で西太平洋・東アジア域内における米国プレゼンスに対する挑戦といった狙いもあり、アジア域内の安全保障環境のバランスが大きく変化しようとしている。中国にとっては、13億人という国民の食料とエネルギー、水資源を確保するために、更に強硬な対応をとって行くことも想定される。

他方、中国では内政的な問題として、急激な経済成長により人件費が高くなったことで国際資本の中国離れ現象が出始めており、加えて一人っ子政策による人口減少で、201

5年を境として生産年齢人口が減少することとなり、中国の成長率が急激に落ち込み、今後5年以内に崩壊し始める可能性が指摘されている。膨張する中国経済の一方で貧富の格差は更に拡大し、汚職体質も改善されない中で、国民の多くが物価上昇等に強い不満を感じており、そのエネルギーは統制が難しいレッドゾーンに入りつつある。民衆の不満が、ネット等を通じてアラブの春に似た形で一気に拡大爆発する可能性がある。なぜなら、中国の現状とアラブの春の間には多くの共通点が存在する。それは、

- ◇独裁的体制
- ◇貧富の格差
- ◇高い失業率
- ◇情報機関・秘密警察等による監視体制(恐怖政治)
- ◇長年の独裁政治に対する不満の蓄積
- ◇ネット社会の発展によるフェイスブック、ツイッターを介した情報の高速伝搬性などである。

これまでは、中国当局の監視体制が力量的に上回っているため、ネット社会を通じた不満の爆発を何とか抑え込んでいるが、チュニジア、エジプト、リビアで現実化したように一気に逆転する可能性は十分にある。その際の国際社会に与える影響は、正に「大津波」となって世界に襲い掛かり、日本にも大きな打撃を与えることは必至である。日本は、この中国による「大津波」のリスクをコントロールすることは残念ながらできない。できることは、チャイナ・プラス・ワンとして、このような事態に備え保険を掛け、被害を最小に抑えるための「ダメージコントロール」を今から準備しておくことである。

世界は、それぞれの国の生き残りのために新たな枠組みを模索している。東南アジアへの関心が高まっている中で、ASEANプラス3かTPPの選択か、経済的には米・中の陣取り合戦とも言えるサバイバルゲームが始まっている。

また、一方で緊迫度を増すイスラエル・イラン関係が大きく影響を及ぼすおそれがある。イスラエルは、イランの核開発に強い危機感を有しており、米の中東における影響力が弱まっていることもあり、イランへの経済制裁に限界を感じ、イスラエルがイランの核施設に対する攻撃を敢行する可能性が日々高まっている。

既に心理戦の段階を越え実戦段階へと移行しており、イランでは核専門家の不審死が連続発生し、他方、イスラエル外交官を狙ったテロも頻発している。

今後、ホルムズ海峡が緊張状態に陥れば、原油価格にリスク・オンされることとなり、現在のドバイ原油価格107ドルが145ドルまで上昇すると試算も出ている。原油価格が10%上がれば、日本の国内総生産GDPは、0.21%押し下げられると試算もあり、また、夏場の国内電力供給に、重大な影響を与えることとなろう。折角回復の兆しを見せた経済情勢も一気に萎んでしまうことも考えられる。

世界には、60億を上回る人口をまかなうだけの食料やエネルギー、水はない。人間の戦争の歴史の多くは、資源の争奪戦とも言える。また、日本は人口の減少による労働力安否の問題に直面することとなろう。将来の不都合な真実を直視し、問題の在りかをしっかり認識し茹でガエルにならないように、今からでも遅くないので手を打たねばならない。「チャイナ・プラス・ワン」として、手を打っていくべき相手方としては、マレーシア、インドネシア、台湾、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、インド、トルコなどが挙げられる。

次に、1月16日に発生したアルジェリアにおける人質事件で、日本人10人が殺害されたことで、「海外における日本人企業関係者の安全対策」が再び注目されているが、エネルギー資源の多くを海外に依存する日本にとって、対応の厳しさに直面している。なぜなら、海外における邦人企業関係者の安全を100%確保することは難しいからである。今回襲撃された天然ガス関連施設は、アルジェリアの国営企業も出資している国家の重要施設で、日揮が設計や機材の調達等を請け負っていたということであるが、アルジェリアの国軍に警備され、被害にあった日揮も海外での安全対策には経験豊かな企業であり、厳重な警備対策を講じていたはずであるが、今回の襲撃から逃れることができなかった。それは、常に「攻撃側の優位」というものがある。どのような警備対策にも弱点はあり、内通者を作られ警備の手の内を知られれば、その弱点を突かれることとなる。今回の事件を通じて守りの難しさをあらためて知らされることとなったのである。

危機管理には、事件の発生を未然に防ぐための「リスクマネジメント」と、事態が発生した場合の被害を最小限度に抑える「ダメージ・コントロール」の二つの側面があるが、リスクを抑えるためには、的確な情報収集と分析を行う体制の確立と情勢に応じた的確な備えにある。しかし、民間企業による情報収集能力には限界があり、国のインテリジェンス・コミュニティと言われる機関が、様々な手法により入手した情報を分析し、資源確保(国益)のため海外に進出している企業と適宜適切に情報を共有する必要がある。

一般的には、外務省がホームページ等でも公表している海外安全情報があるが、より個別的な情報の共有の在り方を早急に具体化する必要があろう。また、ダメージコントロールとしては、事件が発生した場合の対処方法に関し、国も民間企業もしっかり具体的検討を行い、事前に準備できるものはしっかり備え、実戦的な図上訓練などにより対処能力を向上させるしかないのが現実である。

戦後最大の危機に直面して何をなすべきか。このまま差し迫る現実を直視せず「茹でガエル」となるのか。そうならないための留意事項としては、

- ▼不都合な真実から目を背けない
 - ▼先を読む～インテリジェンス力の強化
 - ▼常に最悪を想定し備える
 - ▼ピンチをチャンスに切り替える気概などが挙げられる。
- 「備えあれば憂いなし」の対語として「憂いなければ備えなし」とも言える。日本を取り巻く現状に対し、問題意識がなければ、そもそも備えの発想すら浮かばない。今、日本を取り巻く現実を直視し国民全体が問題意識をもって備えを講じていかなければ、この激流から日本丸を守ることはできない。

【例会予定】

- 3/4 会員卓話 今村浩昭会員
- 3/11 会員卓話 杉田辰彦会員
- 3/25 外部卓話 中村花誠様「邦楽への道」